



40
47
1220

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

湯川秀樹様

606
京都市左京区下鴨泉川町6

c082-004-007

(24)
Dec. 1947 2

京大寄附

↓
1973年3月

(Alfred)

豊田利幸

科学者京都会議
継続委員会事務局

京都市千種区不老町
名大内

第4回 科学者京都会議開催について
お知らせ

1972年12月20日

科学者京都会議継続委員会
事務局 豊田利幸

先にお知らせしましたように、Pugwash会議のPresidentであるAlfven教授が来る3月来日されますが、これを機会に科学者京都会議の集りをもつことについて、12月17日名古屋で開催された勉強会に御出席の方々と相談の結果、下記のように「第4回 科学者京都会議」を開くことになりました。会議の内容としては

- 京都会議の歩んできた道を現在の状況のもとでふりかえり、今後の方向について検討すること、今日の科学者のおかれている状況と科学者の社会的責任、
- 鎌倉の勉強会で提起された「平和の公理系」を今日の場合の中でさらに発展させること、
- Pugwash会議の現状とあり方、中国の科学者の参加の問題、などが予定されています。

なお中国の科学者を第4回会議に招待することについては、わが国の状況や、会議としての受入れ準備などを種々検討して、今回は見送ることになりました。いずれにせよ、今後中国の科学者と接触することは有意義であると考えられますが、接触のしかたや、会議としての態度なども、この会議で御検討いただきたいと存じます。

第4回 科学者京都会議についての詳しい御案内はあらためてさし上げるつもりですが、まずは日程のみお知らせ申し上げます。

記

第4回 科学者京都会議

日時： 1973年3月27日(火)、28日(水)

場所： 御車会館 (京都市上京区河原町今出川下る栗入3
梶井町448の5、TEL(京都)211-5626~8)

連絡先： 京都市左京区北白川追分町 京都大学基礎物理学研究所
小沼通二 (TEL(京都)751-2111 内線7008)
711-1381 直通

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

- なお宿泊の予約を御希望なされる方は 上記 御車会館に個室(1500~1900円)がありますので 上記 小沼宛至急お申し込み下さい。
- 去る12月17日の名古屋における勉強会のメモ、資料を同封します。
- 第22回 Pugwash 会議の論文リストを同封しました。論文のcopyを御希望される方には実費でお送りしますので御申し付け下さい。

申込先 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部物理学教室
沢田 昭二

科学者京都会議勉強会メモ

1972年12月17日 午前11時—午後5時 名正屋、王山会館

出席者 湯川秀樹、朝永振一郎、谷川徹三、有山兼孝、三宅泰雄、
福島孝一、野上茂吉郎、豊田利幸、早川幸男、高木修二、
小川修三、山田英二、小比木久一郎、牧二郎、小沼通二、
安野愈、沢田昭二

午前 座長朝永

オ22回 Pugwash会議の報告—豊田利幸氏報告

(内容については
『世界』1月号「科学と平和」
を参照して下さい。)

[討論]

- Pugwash 会議が大きくなって、手を汚さない人だけの集りでやってこれなかった。JASON 問題は深刻だが初期から矛盾をかかえていた。今度のようにはっきりしてくるとりあげなければならぬ。
- 「聖どけ」で技術的な話がでてきて、米ソ二国の軍縮会議のようになった面があり、基本的問題を議論しようとするオーの流氷がなくなってきた。
- Pugwash 自身の動きのほかにも Russell 法廷や平和集会などが行われ、開催の条件も変わってきて、ひどい兵器を America 人が告発できるようになってきている。
- しかし、America の中ではまだ underground 的である。枯葉作戦についての AAA の活動がやっと JASON 部門のところまでやってきた感じである。automated warfare の資料はやっと今手にはいった。
- America の科学者のとりくみが underground 的になるのは、大きな研究室を押えている人達が JASON 計画に参加しているし、軍事研究に commit すると研究費がでるといふことによる。
- 1950年代のはじめ radar 網の配置のような直接戦術につながらず感じの薄いものに科学者が動員され、それが次第に深入りしていった。はじめは SALT のようなものに関係していて、知られても差つかないという感じであったが、ベトナムになって陰湿なものに変質してきた。
- プラスチック爆弾といわれているものは体がふるふるくらい残虐なものだ。通常のプラスチック爆弾とははっきり区別すべきである。

午後 座長湯川

オ4回 科学者京都会議について—豊田利幸氏報告

(i) Oxford でのオ22回 Pugwash 会議の席上、非公式に Alfven 教授と話した。その内容は

- Alfven 教授は 1972年5月頃約一か月北京へ招待された。その際、中国と Pugwash 会議について話し合いがなされ、中国側から Pugwash 会議で good contribution をなすためにも十

分学習したいとの意向が伝えられた。その後中国はSIPRI
へmissionを送った。

- 来年(1973年)3月中旬から約一か月、プラズマ研究所(伏見
康治所長)の招待で訪日する。その機会に日本のnational
groupの集りを考えていただけないだろうか。また、その会に
中国の科学者を招くことが考えられなかっただろうか。

その後Alfven教授から湯川氏あてに手紙が本された(これはすて
お知らせしたもの)。

- (ii) Pugwash会議におけるAsia地域としての分担金#4000の件
はV. A. Sarabhai教授の後継者が決定するまでpendingとな
った。

[議論]

- 第4回京都会議を開くことにより障害はない。何かcontributionで
きるということは結構なことであるが、Asiaが入ると十分慎重に考
えねばならない。
- 国交は回復したが、学者レベルで中国と話を通じ合う上で数か
月の準備で現実化が可能であろうか。
- 3月の会で、中国を含めてfruitfulな会となるように今から準備
できようか。
- 京都会議としては鎌倉の勉強会(1965年6月)における「平和の公
理系」を更に発展させることと、「科学者の社会的責任」の問題(例
之はJASON)がある。
- Internationalな場で、つめた具体的な議論が可能だろうか。
「平和の公理」の具体的な問題への応用は極めて難しいのでは。
- アジアの国の中には日本の「富国強兵」策の道と再び歩もうとす
る国もあるのではないか。そこで「科学者の社会的役割・責任」
は?
- 「科学者の社会的責任」は4次防のもとでの日本において深刻に
考えねばならぬであろう。
- 「公理系」と3月の会とを直接に結びつけなくて幾分long range
に考えた方がよい。鎌倉の会のようにつめるのは大変

[結論]

- 第4回科学者京都会議をAlfven教授来日を機に開く。
- 科学者京都会議の歩んできた道と現在の状況のもとでふりかえり、科
学者のみかかっている状況で「科学者の社会的責任」を考える。
- 鎌倉の会での「平和の公理系」をup to dateにしたnew version
をともに討議し一層深いものとする。new versionは事務局で事
前に用意する。
- 中国についてはAlfven教授を含めた3月の会での検討をもとに、今
後の方向を考える。
- 日時・場所は3月27日、28日京都とする。
- 拡大継続委員会を1月31日名古屋で開く。→変更(2月1日東京)

(以上)